



アマモの種とり&生き物観察講座 開催しました!

日時: 平成29年5月27日(土)
16:00~18:00

会場: 香川県総合運動公園・
付近の海岸

講師: 川西 敦 氏 (香川県水産試験場長)



水質浄化や稚魚の成育場として重要なアマモ場は、沿岸域の埋立てや環境悪化などにより多くが失われました。近年、増加傾向にありますが、依然として少ない状況です。今回の講座では、「海のゆりかご」、「海の森」と呼ばれるアマモ場の再生への取りくみを体験しました。



この日は先に、アマモや里海について講義を受けました。藻場の海での役割や、このあと採取するアマモの「花枝」について、水産試験場の方からお話を伺いました。また海に住む生物についてもお話があり、この時期には触れると大変痛い魚もいるので触れないよう注意を受けました。

講義の後は、海へ移動してのフィールドワークへ。参加者は胴長を着用して、まずは本物のアマモをみて、採取してはいけない「栄養株」と、今回採取する「花枝」の見た目の違いについてお話がありました。



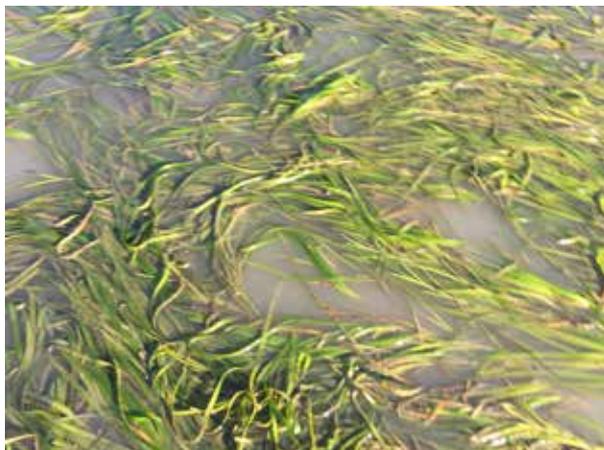
今回の講義には子どもたちも多く参加していて、普段気づかなかった海の生き物に触れる絶好の機会となりました。

また、大学生などの参加もあり、幅広い年代の方に、アマモや里海への関心を持っていただけているようです。

いよいよ海の中へ。潮の引いた海に入ると、ぬかるみに足を取られたりして四苦八苦!しかし参加者の皆さんはすぐに慣れ、アマモの花枝の採取に取り組みました。

花枝の部分はすぐには見分けがつかず、参加者の皆さん同士で確認しながら、一人50本の花枝を採取しました。

花枝は、現在秋に予定している種まきに向けて水産試験場で保管しています。



アマモの花枝採取のあとは、二人一組で、アマモ場に住む生物を採取しました。(※)

珍しい生き物や食卓でもおなじみの魚もいて、皆が採取したいろいろな生物が水槽に集められると、皆さん興味深そうに水槽の中をのぞいて観察していました。

※採取した生物は観察後に海に戻しました。



最後に講師から、「アマモの花枝採取は特別な許可がないとできません。皆さんには、アマモを守るために、アマモを食べる魚『アイゴ』を皆さんが食べることで、ぜひアマモを守る取り組みをしてください」と説明を受けました。



参加した皆さんは、海のゆりかご、アマモに初めて触れることができ、里海づくりにより関心を深める事ができたようです。